

五度も死を望んだ太宰治を人生と作品から見る

66班:河野 赳虎、後藤 健太、佐藤 琉太、野末 颯太

Abstract

Dazai's suicides are as many as five times. We started to read letters of him and explore connections between his life and work. As a result, we found two bright among his works, the majority of which are dark in nature, and investigated them in the hope that they would help us understand his life. We researched the works because we thought they would help us understand his life. We concluded that he did not write them with a happy heart and that his true feelings were dark.

要約

太宰治の自殺決行の回数は5回にのぼる。そんな彼の人生と作品の関連性を探るべく、我々は彼の自殺行為の時期の前後に発表された作品および彼の書いた手紙を読み進めた。その結果、暗い内容のものが大半を占める彼の作品の中で、2つの明るい作品を見つけた。我々はそれらが彼の人生の理解に役立つと考え、その作品について調査そののした。そして彼は明るい心情でそれらを書いたわけではなく、あくまで彼の本心は暗かったと結論づけた。

1. はじめに

太宰治は「走れメロス」や「人間失格」など数々の作品を残しており、現代の文学にも大きな影響を与えている。人物背景を調べていく中で、太宰治は5回もの自殺を試みているということを知り、そんな太宰の人生と作品の関連性に着目した。

2. 研究手法

太宰の自殺行為の回数に着目し、まず彼が自殺を決行した時期で時代区分をした。次にそれぞれの自殺行為の時期の前後に発表された作品を読み、その内容を明暗で分け、特徴を表にまとめた。また、大家族だった太宰にとって重要である人間関係について、彼が書いた手紙などを読み深め調査した。その際解釈に齟齬が生まれないよう複数人で読み進めた。

3. 結果

下記の表の第三期～第五期は太宰の3～5回目の自殺の前後に発表された作品をそれぞれまとめている。また、第一期、第二期は作品の発表された時期と執筆された時期が大きく異なるため、表に記載していない。

区分	発表年	タイトル	特徴	印象【明・暗・微明・微暗・並】
第三期	1934	彼は昔の彼ならず	昔の太宰自身の投影が感じられる、とある大家の話。	並
		ロマネスク	太郎、次郎兵衛、三郎の三者三様の物語。	暗
	1935	逆光	若い女性が死ぬ。時系列が逆。	微暗
		道化の華	人間失格のアナザーストーリー	暗
		雀こ	方言で書かれている。井伏鱒二宛。	暗
		玩具	幼少期の回想。実家の物を盗む。	暗
第四	1936	喝采	人前での演説。おもしろおかしな話。	暗
	1937	二十世紀旗手	意味不明な文章。薬物中毒中。	暗

期		あさましきもの	人間のあさましい心について書かれた。	暗
		HUMANLOST	手記形式。パビナル中毒中に書かれた。	微明
		灯籠	出自の不明な娘の家族愛。	暗
		満願	三年越しに夢が叶う話。	明
第五期	1948	眉山	飲み屋の女性店員へのいびりを後悔する話	微暗
		渡り鳥	鳥のように軽い人間性を持つ主人公。	暗
		桜桃	夫婦、子供関係に悩み自殺を考える。	暗
		人間失格	本性を知られないために道化を演じた青年の話。	暗
		グッド・バイ	主人公のこじれた愛人関係の清算を軽快に描く。	明

研究より、自殺時期の前後は印象が暗い作品が多いが、第四期の「満願」と第五期の「グッド・バイ」は印象が明るい作品であると考えられた。

4. 考察

「満願」、「グッド・バイ」がなぜ明るいのか考察するために、まず太宰治の私生活を調べ、次のことが分かった。

昭和10年	急性盲腸の治療の為に使用したパビナルの中毒になる。
昭和11年	太宰治の師である井伏鱒二らの勧めで武蔵野病院に入院し、中毒を根治。
昭和13年7月	原稿が売れなかった頃に井伏鱒二が縁談を持ち込む。
昭和13年9月	「満願」を発表。
昭和14年	井伏鱒二にこれまでの乱れた生活を改める結婚誓約書を提出し結婚する。
昭和22年	後の愛人となる山崎富栄と出会う。
昭和23年5月	「グッド・バイ」の執筆を開始。
昭和23年8月	山崎富栄と入水。

これらから「満願」、「グッド・バイ」が明るい理由を次のように考察した。

・「満願」

原稿が売れなかった頃に井伏鱒二から持ち出された縁談を契機にした明るい作風への転換。

・「グッド・バイ」

結婚の際に井伏鱒二にこれまでの乱れた生活の反省を記した「結婚誓約書」を提出したにも関わらず、愛人関係をもってしまった自分に対する最後の皮肉。

5. 結論

太宰の人生並びにその作品から、彼の作品はその人生と深く関わっているということが分かった。中でも「満願」と「グッド・バイ」の二作品は太宰らしくなくとても明るい印象を受けたが、本心は苦しんだま

までであると考えた。自殺時期に抱いた太宰治の明るい感情は外的要因による表面的なものであり、本音は作品自体を明るくできるようなものではない、心に深く根ざした負の感情であるということが分かった。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

太宰治(著)「太宰治全集」(第一巻～第十巻) 筑摩書房 1989

太宰治(著)「地図 初期作品」 新潮文庫 2009 5-1

河出書房新社(著)「太宰よ！45人の追悼文集」 河出書房新社 2018 6-20

太宰治(著) 小山清(編)「太宰治の手紙」 河出書房新社 2018 6-10

太宰治の生涯～略年譜～ 「太宰ミュージアム」(参照2023 1-11)